

【技術分類】 2-1-37 種別栽培方法／腐生性菌／シロキクラゲ科シロキクラゲ属

【技術名称】 2-1-37-1 シロキクラゲ (*Tremella fuciformis*)

【技術内容】

1 生理特性¹⁾

菌糸体の生育温度は、5～38℃、適温は25℃、子実体発生温度は20～28℃である。

2 原木栽培¹⁾

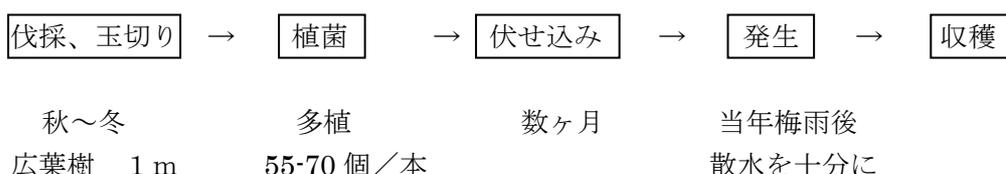
樹種はマンゴー、クリ、ヤマザクラ、タブノキ、クワ、ユズ、ヤマモモ、タイワンフウが適している。晩秋から冬にかけて伐採し、植菌直前に1mに玉切りする。ただし、直径が太い原木は短くするほうが扱いやすい。植菌は最高温度が5～15℃の間に行う。菌は植菌箇所から周辺に1～2cmしか生長しないため、植菌は9～12個／列、列間5cmの55～70個／本の多植を行う。植菌後から当年6月までよよい伏せ、井桁伏せ等により伏せ込みを行う。6月の梅雨入りとともに、子実体の発生が始まるので、ほだ木は湿度が88～95%で風当たりが少ない場所に移動させ、収穫しやすいようにほだ木は合掌に組む。ほだ木、生育子実体が乾燥しないように、十分散水を行う。

3 菌床栽培²⁾

培地組成は(1)おがこ、ふすま、砂糖、石膏、過リン酸カルシウム、大豆粉をそれぞれ77:18:1:1.5:1:1.5(重量比)あるいは(2)綿実かす、ふすま、大豆粉、ショ糖、過リン酸カルシウム、石膏をそれぞれ、ふすま、砂糖、石膏、過リン酸カルシウム、大豆粉をそれぞれ100:25:31:1.5:1.5:2(重量比)に混合後、水を加えて含水率が55-60%になるように調製する。瓶あるいは袋に詰めた後、滅菌する。おが種菌はシロキクラゲと香灰菌が共生しており、両菌を瓶あるいは袋に接種する。培養温度は、初期の3～5日間は25～28℃、その後18～23℃にする。10～15日培養後、温度18～23℃、湿度85～95%の発生処理を行う。15～20日後に原基が形成された後、温度23～24℃、湿度95～100%とし、子実体を生育させ、30～40日後に子実体が収穫できる。

【図】

図1 シロキクラゲの原木栽培工程



出典：本標準技術集のために作成

【出典／参考資料】

- 1) 「シロキクラゲー原木栽培」、図解やさしいきのこ栽培、1985年5月1日、財団法人日本きのこセンター編、社団法人家の光協会発行、183-188頁
- 2) 「銀耳(シロキクラゲ)栽培法」、中国食用菌百科、1993年5月、王年来主編、中国農業出版社発行、263-266頁

【技術分類】 2-1-37 種別栽培方法／腐生性菌／シロキクラゲ科シロキクラゲ属

【技術名称】 2-1-37-2 ハナビラニカワタケ (*Tremella foliacea*)

【技術内容】

1 生理特性

菌糸体の成長温度は5~35℃で、15~30℃で最もよく成長した¹⁾。液体培地のpHは4.0~9.0の範囲で良好に増殖した²⁾。

また、コナラ原木内における横断面での菌糸体の初期まん延率は、接種後1ヶ月間で21.2~22.7%、3ヶ月後で50.3~58.8%であった²⁾。これらのことから、本菌は比較的幅広い環境下での成長が可能である。

2 原木栽培

コナラを用いた試験例が報告されている。コナラ原木の伐倒時期や玉切り時期等は、シイタケ栽培と同様に行い、3月下旬におが粉種菌を原木1本当たり23個及び43個接種した。その後、前者をムカデ伏せ、後者をヨロイ伏せとし林内に伏せ込み、菌糸体を活着及びまん延させた。9月にヨロイ伏せしたほだ木の一部を15℃の水に20時間浸水させ、子実体を発生させた。その他のほだ木は、そのまま林内に置き子実体を発生させた。子実体の成長が止まった時に収穫し、生重量及び乾燥重量を測定した。

子実体発生はムカデ伏せした林内自然発生が良好で、発生率が60.0%、原木1本当たりの収量は生重量で415.9g、乾燥重量で53.9gであった。子実体発生が最も悪かったのは、ヨロイ伏せの浸水発生であった¹⁾。これらのことから、接種数はコナラ原木1本当たり23個、林内でヨロイ伏せし、そのまま子実体を発生させる栽培方法が適している。

【図】

表1 コナラ原木内での菌糸体初期まん延率

測定位置	培養期間		
	1ヶ月間	2ヶ月間	3ヶ月間
上部	21.2	47.5	58.8
下部	22.7	41.8	50.3

数値は原木10本の平均まん延率(%)

出典：「コナラ、クヌギ原木の利用による野生きのこの栽培技術に関する研究」、静岡県林業技術センター業務成績報告 平成16年度、2005年6月9日、山口亮著、静岡県林業技術センター発行、51頁 表-2 コナラ原木での菌糸体の初期まん延率

表2 栽培方法別の子実体収量

伏せ込み場所	栽培方法		生重量 ^{z)} g	乾燥重量 ^{z)} g	発生率 ^{y)} %
	組み方	発生方法			
林内	ムカデ伏せ	自然	415.9	53.9	60.0
林内	ヨロイ伏せ	自然	362.8	37.4	33.3
林内	ヨロイ伏せ	浸水	70.4	23.8	26.7

z): 数値は発生したほだ木1本当たりの平均値
y): 発生ほだ木数/供試ほだ木数

出典：「コナラ、クヌギ原木の利用による野生きのこの栽培技術に関する研究」、静岡県林業技術センター業務成績報告 平成 15 年度、2004 年 6 月 7 日、山口亮著、静岡県林業技術センター発行、55 頁 表-1 栽培方法別の子実体収量

【出典／参考資料】

- 1) 「コナラ、クヌギ原木の利用による野生きのこの栽培技術に関する研究」、静岡県林業技術センター業務成績報告 平成 15 年度、2004 年 6 月 7 日、山口亮著、静岡県林業技術センター発行、55 頁
- 2) 「コナラ、クヌギ原木の利用による野生きのこの栽培技術に関する研究」、静岡県林業技術センター業務成績報告 平成 16 年度、2005 年 6 月 9 日、山口亮著、静岡県林業技術センター発行、50-51 頁
- 3) 「コナラ、クヌギ原木の利用による野生きのこの栽培技術に関する研究」、静岡県林業技術センター業務成績報告 平成 14 年度、2003 年 9 月 16 日、山口亮著、静岡県林業技術センター発行、49-50 頁